

## 彫 刻

鎌倉は建長寺や円覚寺のような禅宗寺院をはじめ、各宗派でも由緒のある寺院が集中する地域です。こうした寺社などに祀られたご尊像は、古くから地域の信仰を集め、こんにちまで大切に守られてきました。それらのうち特に重要な作品の多くが鎌倉国宝館に寄託されており、当館の収蔵品の中心的な存在になっています。

当館は平安時代から近代に至る幅広い時代の彫刻作品を収蔵していますが、なかでも鎌倉時代から室町時代の中世の仏像は、関東屈指の名品が揃うことで知られます。東国でも活動した仏師運慶ら慶派仏師が得意とした力強く躍動感にあふれる姿の仏像や、禅宗寺院の興隆とともに、中国・宋と日本を行き来した僧侶たちによってもたらされた新たな様式による異国的な雰囲気のある仏像など、鎌倉地方ならではの特色がよく表れたこうした作品群こそ、鎌倉の歴史と文化を象徴するものといえるでしょう。



薬師三尊及び十二神将立像 15 軀

神奈川県指定文化財 鎌倉国宝館蔵

薬師如来：平安時代（12世紀） 木造 素地 像高 173.5 cm

日光菩薩・月光菩薩：江戸時代（18世紀） 木造 漆箔 玉眼 像高各 104.0 cm

十二神将：鎌倉時代（13世紀）、江戸時代（18世紀） 木造 彩色 玉眼 像高 116.8～159.3cm

平成5年（1993）に大町の辻薬師堂から鎌倉市に移管された群像です。薬師如来・日光菩薩・月光菩薩・十二神将は、それぞれ異なる時代に造られました。薬師如来像の穏やかな顔つきや扁平な身体は、平安時代に流行した「定朝様」に基づく表現です。これにたいして、鎌倉時代の十二神将像は、身体や着衣の動きが立体的で、当時の有力な慶派仏師が造立したものと考えられます。江戸時代に補われた4軀も、全体のまとまりを意識して、巧みに造形されています。



やくしにょらいごぞう  
薬師如来坐像

重要文化財 寿福寺蔵 鎌倉時代  
銅造 鍍金 像高 53.5cm

『吾妻鏡』建暦元年(1211)11月16日条には、北条政子が子息・源実朝の病氣平癒を祈って金銅薬師三尊像を造立したといい、本像がその中尊に当たると考えられています。もとは鶴岡八幡宮に安置されていましたが、明治初年の神仏分離に際して、寿福寺に移されました。



あみだにょらいおよびりょうきやうじりゆうぞう  
阿弥陀如来及び両脇侍立像

重要文化財 円覚寺蔵 文永8年(1271)  
銅造 鍍金 像高 32.8~42.4cm

信濃善光寺の絶対秘仏を模した、いわゆる善光寺式阿弥陀三尊像の一作例です。中尊が刀印、両脇侍が梵篋印を結ぶ点や、一つの光背に三軀がまとめて納まる点などが特徴で、全国に多数の模像が残っています。

伝来は不明ですが、中尊の台座蓮肉下柄部の陰刻銘によって円覚寺の開創よりも早い時期に铸造されたことが分かっています。



しょうこうおうごぞう  
初江王坐像

重要文化財 円応寺蔵 建長3年(1251)  
幸有作 木造 古色 玉眼 像高 102.0cm

閻魔王に代表される10名の冥府の裁判官を「十王」といいます。初江王は二七日の裁判官とされており、本像では見開いた眼と、動きのあるポージング、下半身の衣の縁が大きく波打つ表現などにより、迫力のある姿に表されています。

像内内剝り面に残る墨書によって、造立年や願主、作者が分かっており、基準作としても重要です。



韋駄天立像

鎌倉市指定文化財 浄智寺蔵 鎌倉時代  
木造 彩色、土紋 像高 86.0cm

俊足の代名詞として知られる韋駄天は、甲冑を着けて合掌する姿に造られ、主に禅宗寺院の庫裏に祀られます。

粘土質の土で立体的な文様を表現する「土紋」という中国由来の珍しい装飾技法が用いられている仏像で、甲冑の腰部には毘沙門亀甲文の土紋が見られます。



伽藍神像

重要文化財 建長寺蔵 鎌倉時代  
木造 彩色 玉眼 像高 98.6cm

建長寺仏殿内の土地堂に安置される5軀の伽藍神像のうち1軀です。各像の尊名は不詳ですが、本像を蘭溪道隆(大覚禅師 1213~78)に來日を勧めた張大帝とする説があります。

鼻の下や顎には複数の小穴が開いており、かつては植毛によって鬚を生やした姿だったことが分かります。



明庵栄西坐像

県指定文化財 寿福寺蔵 鎌倉時代  
木造 彩色 玉眼 像高 60.6cm

明庵栄西(1141~1215)は、宋に渡り日本に臨済禅をもたらしたことから、日本臨済宗の祖と称されます。北条政子や源頼家らが帰依し、鎌倉幕府の中核と深く結び付き、寿福寺や京都・建仁寺を開きました。

禅宗の僧侶の肖像である「頂相彫刻」は鎌倉市内に多数存在しますが、本像は中でも早い時期に造立されたとみられ、人体表現に優れた秀作です。



北条時頼坐像

重要文化財 建長寺蔵 鎌倉時代  
木造 彩色 玉眼 像高 68.9cm

鎌倉幕府五代執権、北条時頼(1227~63)は北条氏による専制政治を強めただけでなく、宗教文化にも造詣の深い人物であったことが知られ、中国・宋から來日した蘭溪道隆(1213~78)を開山に招き建長寺を創建しました。

烏帽子と狩衣を着けた姿に身体的特徴が表現されない分、面貌の写実性が際立っています。東国に残る武人肖像彫刻の代表的な作例です。